

七 清浦伯爵

兄が大正三年、中根式速記を創案した後、兄と二人で京都速記学校、京都正則予備校、同十年ごろから両洋中学と改称して経営していたのですが、昭和のはじめ、両洋高等商業学校を建てることにしたのです。その当時同志社高等商業学校が受験生八百名、入学許可者三百名、そうすると五百名も入学できないことになるので、両洋に高等商業学校をつくることにして建築にかかったのです。最初は棟上げ式がすんでから代金をいくらか払うような約束だったのに、小さな請負者であったため、棟上式がすまないうちからどんどん、費用が足りないから出してもらいたいといってくるのです。しかしこつちには資金がないので建築は次第に遅れ、三月に出来上がる予定が出来ないのです。三月、生徒募集をすれば相当の収入があるはずですが、その時期を過ぎてしまい六月になったのです。とうとうまだ全部出来上がらないのにしびれを切らして、生徒募集をしたのです。両洋高等学院高等部として募集したのですが、時期を失っているので生徒が少ししか集まらず、収入も少なく、建築費に困ってしまったのです。

ある日、私は建築費を清浦伯爵にお願いしようと思ひ、兄に黙って上京し、清浦伯爵を日比谷の松本樓にお訪ねしたのです。清浦伯は謡の会か何かでそこに行っておられたのです。松本樓は政治家がよく利用していたため、日比谷の松本樓といえば非常に有名だったのです。私は清浦伯にお会いして事情をお話し